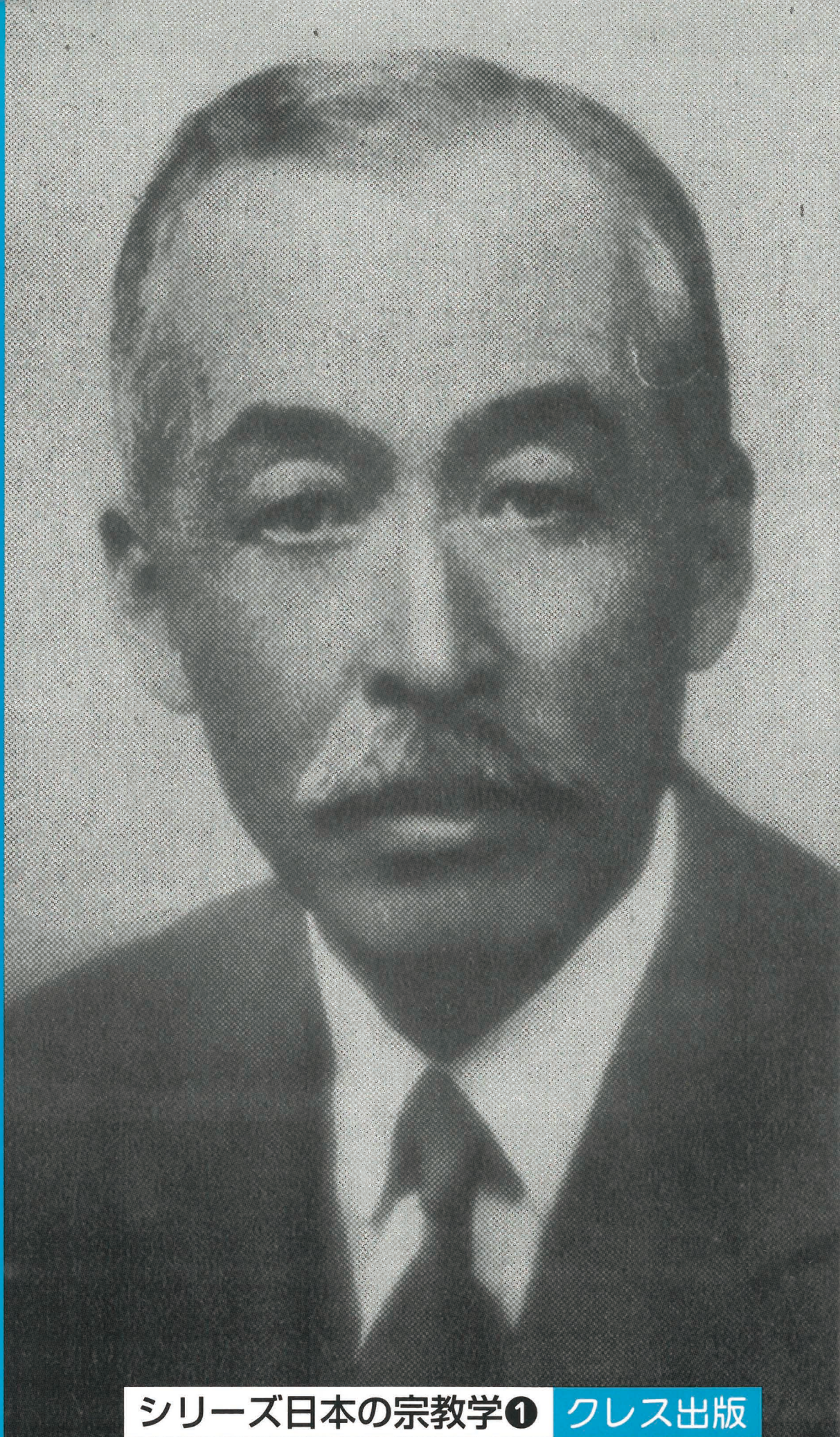


姉崎正治集

全9巻

高島
橋 蘭

原進
解説 監修



シリーズ日本の宗教学① クレス出版

本シリーズは日本の宗教学の歴史を振り返るための基礎資料を整えようとするもので、まず姉崎正治を取り上げる。

姉崎正治（一八七三—一九四九）は日本の宗教学を確立した人物である。日本の大学で初めての宗教学講座の初代教授であり、日本宗教学会設立の立役者である。その宗教学者としての影響は、後代に広く及んでいる。自らは仏教徒であったが、諸宗教に幅広い目配りを行い、バランスのとれた宗教研究を精力的に進めた。『日本宗教学史』などの英文著作は、今もよく読まれている。

宗教学史上、重要な業績がいくつもあり、そのいくつかは復刻、または再刊されている。『法華経の行者 日蓮』（一九一六年）などは近年、講談社学術文庫にも入り広く読まれたし、『宗教学概論』（一九〇〇年）や『聖徳太子の大士理想』（一九四四年）、あるいはキリシタン研究の諸著作も復刻により、比較的、手に取りやすいものとなってきた。

しかし、これらは姉崎の重要な著作の一部にすぎない。明治末期、ニーチエ信奉者、また日本主義者として知られた高山樗牛の盟友として、またショーペンハウエルの翻訳者として一世を風靡した文人姉崎を代表する諸著作は今では

なかなか手に取りにくくなっている。田中智学、山川智広らの日蓮主義者との関わり、宗教対立の超克を目指した帰一協会の実践思想家としての行動、渋沢栄一ら政財界指導層との交わりと政治的影響力、ハーヴァード大学等の国際的場面での独特の位置どりなど、注目すべき側面が数々ある。だが、それらはこれまであまり取り上げられずに来ている。

この著作集では狭い意味での宗教学の範囲内の著作に限らず、姉崎の多方面の知的活動の全体に目を配っている。最近、磯前順一・深澤英隆編『近代日本における知識人と宗教——姉崎正治の軌跡』（東京堂出版、二〇〇二年）が刊行され、初めて教学者、文人にして政治的影響力をもった知的リーダー、姉崎正治の思想と生涯の全体像が描き出された。この著作集は、今よみがえりつつある姉崎の実像を著作に即して検討しようとするとき、不可欠の資料となることだろう。

編集作業は気鋭の研究者である磯前順一氏、高橋原氏の力添えを得てなされ、高橋氏による行き届いた解説が付されている。

今回は『井上哲次郎集』を予定している。

姉崎正治集 全9巻構成

第1巻 言語学的宗教学

明治30年/哲学館

比較宗教学

明治31年/東京専門学校

第2巻 復活の曙光

明治37年/有朋館

第3巻 国運と信仰

明治39年/弘道館

第4巻 樗牛嘲風往復集〔文は人なり〕

明治44年/博文館

停風集

明治44年/博文館

南北朝問題と国体の大義

明治44年/博文館

第5巻 宗教と教育

明治45年/博文館

第6巻 新時代の宗教

大正7年/博文館

第7巻 世界文明の新紀元

大正8年/博文館

第8巻 社会の動揺と精神的覚醒

大正9年/博文館

第9巻 論文集・解説

比較的研究の精神（明治28年）
所謂新宗教（明治30年）
日本主義に促す（明治30年）
今後の宗教界を如何にせんか（明治31年）
高山樗牛と日蓮上人（明治37年）
桃山奉送の記（明治45年）
宗教信仰の性質 特に人生の他の活動との関係（明治45年）
聖徳太子の理想と政策（大正8年）
社会問題と宗教問題（大正9年）
大本教に就いて（大正9年）
切支丹宗門改めの心理（大正11年）
宗教研究特輯号の発刊（昭和3年）
青淵翁と宗教問題（昭和8年）
日本に於ける現代文化の危機（昭和11年）
戒厳令下に十七条憲法を読む（昭和11年）
有形の図書館と無形の図書館（昭和12年）
謡曲に於ける神道と仏教（昭和18年）
天佑天譴について（昭和20年）
所謂の国民総懺悔（昭和20年）
仕かけと目あて 機械観と目的観（昭和23年）
天理教について（昭和24年）

無常變轉
減と久遠不

(138)

宗教と教育

五 慈愛と權威

天地間の物事、人事の變轉、看來れば人間は變遷流轉の中に圍まれて居る。年々歳々花は同じくとも人は同じからず、頼みとした人の心も、秋の空と變るなど、考へ来れば、人生只現實あるのみとの感もしやう。然るにその現在現實も、水の如く流れては歸らず、矢の様に迅速に移り移る。過去は不動大磐石の如くに現在を嘲笑し、未來も望みの虹と共に追へば去る。飲め、食へ、只現在を樂めといふ心の中にも、やはり人生の岐路に立つて迷ひ且つ失望する念が、その裏面に黒影の如く立つて居る。然しながら、『源遠ければ流長く、』根の深い老松は、空を突いて風雨を凌ぎ得るでないか。頼みないかの如く見える人生の中に、若し遠い源と深い根がなくば、我々は如何にしてこの現在をも樂み得やう。今の世に現實主義の人が多い。現實にのみ目が眩んでその源を思は

人生の改造と弱者の力

何萬年だか、何十萬年だかの昔、地史の上で中古紀と稱せられる時代の終りに近い頃、到る處、熱帯の濕地の様な地面に、芦や羊齒が喬木の如くに茂り、翼のある鰐や劍の牙ある象の様な動物が、時を得がほに威張つて居た。大樹林はあるが、多くは隠花植物であるから、世には花らしい花もなく、而して晝なほ暗い密林の中には、怪物巨獸が、弱いものを餌として自分の身體を養ひ、子孫を繁殖して、強者の勝を誇つて居た。總てが物凄く殺伐に、大きな植物と強い動物とのみの世界であつた。

然るに巨木怪獸の間にも、小さな昆蟲が生息して居たが、其中の或る者が、どうしたはづみにか、花の色に引きつけられて、花の蜜を吸ふ事を知り始めた。其頃の顯花植物は、隱花の大植物に壓倒せられて極めて憐れなものであ

シリーズ日本の宗教学① 姉崎正治集 全9巻

第1巻	言語学的宗教学、比較宗教学	定価 8,600円(税別)	ISBN4-87733-161-1
第2巻	復活の曙光	定価11,000円(税別)	ISBN4-87733-162-X
第3巻	国運と信仰	定価12,800円(税別)	ISBN4-87733-163-8
第4巻	樗牛嘲風往復集、停風集 南北朝問題と国体の大義	定価12,000円(税別)	ISBN4-87733-164-6
第5巻	宗教と教育	定価13,400円(税別)	ISBN4-87733-165-4
第6巻	新時代の宗教	定価 9,200円(税別)	ISBN4-87733-166-2
第7巻	世界文明の新紀元	定価11,000円(税別)	ISBN4-87733-167-0
第8巻	社会の動揺と精神的覚醒	定価 9,000円(税別)	ISBN4-87733-168-9
第9巻	論文集・解説	定価 8,000円(税別)	ISBN4-87733-169-7

A5判/上製函入/クロス装 揃定価95,000円(税別)
平成14年12月末日刊行 ISBN4-87733-160-3(セット)

アジア・太平洋地域 民族誌選集

全36巻

揃定価五〇二、〇〇〇円(税別)

山下晋司・中生勝美・伊藤亞人・中村 淳 編

- 1 南方文化講座 歴史篇
- 2 三省堂南方文化講座刊行係編 昭和18年
- 3 南方文化講座 日本南方発展史篇
- 4 三省堂南方文化講座刊行係編 昭和19年
- 5 南方文化講座 民族と民族運動篇
- 6 三省堂南方文化講座刊行係編 昭和19年
- 7 大南洋 文化と農業
- 8 太平洋協会編 昭和16年
- 9 太平洋圏 民族と文化 上巻
- 10 太平洋協会編 昭和19年
- 11 ニューカレドニア・その周辺
- 12 太平洋協会編 昭和19年
- 13 南方の芝居と音楽
- 14 松原晩香著 昭和18年
- 15 南方民族図譜
- 16 厚生省研究所人工民族部編 昭和19年
- 17 大東亜民族誌
- 18 東亜経済懇談会編 昭和19年
- 19 南方諸民族事情研究
- 20 国策研究会著 昭和18年
- 21 太平洋民族誌
- 22 松岡静雄著 大正14年
- 23 ミクロネシア民族誌
- 24 松岡静雄著 昭和2年
- 25 インドネシアの民族医学
- 26 清野謙次著 昭和18年
- 27 海南島黎族の社会組織
- 28 岡田謙著 昭和19年
- 29 海南島黎族の経済組織
- 30 尾高邦雄著 昭和19年
- 31 民族調査資料 第一輯 第五輯
- 32 海南海軍特務部政務局 昭和17年
- 33 マライシアに於ける糯米儀礼
- 34 宇野円空著 昭和19年
- 35 第二回全8巻 揃定価一一〇、〇〇〇円
- 16 南国記
- 17 竹越与三郎著 明治43年
- 18 南洋風土記
- 19 安藤喜一郎著 昭和8年
- 20 バタ族の社会と生活
- 21 井上吉次郎著 昭和17年
- 22 ジャワ社会の研究
- 23 松浦靖著 昭和19年
- 24 東印度の文化
- 25 齊藤正雄著 昭和15年
- 26 比律賓民族誌
- 27 三吉朋十著 昭和17年
- 28 比律賓の宗教と文化
- 29 三吉朋十著 昭和17年
- 30 比律賓の土俗
- 31 三吉朋十著 昭和17年
- 32 比律賓群島の民族と生活
- 33 仲原善徳著 昭和17年
- 34 増田福太郎著 昭和17年
- 35 台湾の宗教
- 36 増田福太郎著 昭和14年
- 37 原始刑法の探求
- 38 増田福太郎著 昭和19年
- 39 東亜民族要誌資料 第一輯 第四輯
- 40 帝国学士院東亜諸民族調査室編 昭和19年
- 41 東亜民族名集
- 42 帝国学士院編 昭和19年
- 43 第三回全8巻 揃定価一〇八、〇〇〇円
- 44 蒙古地誌 総論、史略、地理
- 45 蒙古地誌 行政
- 46 蒙古地誌 殖産興業(1)
- 47 蒙古地誌 殖産興業(2)
- 48 蒙古地誌 運輸交通、宗教、教育、風俗
- 49 蒙古地誌 各旗通志、都邑概況、結論
- 50 柏原孝久・浜田純一共著 大正8年
- 51 第四回全6巻 揃定価一一四、〇〇〇円
- 29 満洲民族学会会報
- 30 満洲民族学会編 昭和18、19年
- 31 満洲国道院中字会の概要
- 32 小竹一郎著 昭和18年
- 33 満洲史観
- 34 黒田源次著 昭和18年
- 35 人口統計より見たる満洲国の縁族複合状態
- 36 宮川善造著 昭和15年
- 37 満洲民俗考
- 38 満洲事情案内所編 昭和15年
- 39 満蒙民族誌
- 40 満鉄経済調査会編 昭和11年
- 41 満洲宗教誌
- 42 満鉄鉄道総局弘報課編 昭和15年
- 43 満洲風土記 上巻
- 44 満洲日報社編 昭和19年
- 45 満洲風土記 中巻
- 46 満洲日報社編 昭和19年
- 47 綏遠に於ける蒙古民族 生活と習俗
- 48 内藤潮邦著 昭和18年
- 49 満洲に於ける鄂倫春族の研究
- 50 治安部参謀司調査課編 昭和14年
- 51 ソロン族の社会
- 52 上牧瀬三郎著 昭和15年
- 53 中支に於ける民間信仰の实情
- 54 興亜院華中連絡部編 昭和17年
- 55 北京回民小本借貸に就いて
- 56 小林宗三郎著 昭和16年
- 57 西北羊毛貿易と回教徒の役割
- 58 幾志直方著 昭和15年
- 59 満洲国の回教調査資料
- 60 山本登著 昭和16年
- 61 北支那回教事情
- 62 満鉄北支経済調査所 昭和15年
- 63 第五回全8巻 揃定価九〇、〇〇〇円